

学会記事

第11回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第11回徳島医学会賞は次の2名の方々の受賞が決定いたしました。両名の方々には次回、第228回徳島医学会学術集会（冬期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は本号に掲載しております。

（大学関係者）



受賞者氏名：清陰恵美
 生年月日：昭和40年3月7日
 出身大学：徳島大学工学部生物工学科
 所属：徳島大学大学院医学研究科博士課程3年
 （社会人大学院生）

（情報統合医学講座形態情報医学分野）

研究内容：嗅球におけるステロイド合成酵素の局在受賞にあたり：

この度は、第11回徳島医学会賞に選出していただきありがとうございました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。現在私は、情報統合医学講座形態情報医学分野・石村和敬教授、樋田一徳助教授の下、ラット及びマウス嗅球における5 α リダクターゼを中心としたステロイド合成酵素の局在に関する研究を行なっております。脳内においてコレステロールから *de novo* 合成される神経ステロイドは、これまでに海馬、小脳などでその代謝経路の存在が報告されていますが、その存在意義は未だ十分解明されていません。その中で私達は、嗅球でのエストラジオール合成系代謝経路の存在を初めて明らかにしました。比較的単純な神経回路を有する嗅球において、匂

い情報を高次脳中枢に伝える投射ニューロンに各種の合成酵素が共存することから、嗅球機能に神経ステロイドが深く関与していることが考えられます。今回の受賞を励みに、神経ステロイドの機能の解明を目的に、更に研究を進めたいと思います。今後も御指導の程よろしくお願いいたします。最後になりましたが、御指導をいただきました、石村教授、樋田助教授、同分野・山本登志子助手に心から感謝を申し上げます。



（医師会関係者）
 受賞者氏名：松岡 優

生年月日：昭和23年12月17日

出身大学：徳島大学医学部医学科

所属：徳島市民病院小児科

研究内容：I型アレルギー感

作の若年化について

受賞にあたり：

この度は第11回徳島医学会賞に選出していただき、光栄に存じます。近年、アレルギー患者の増加がよく指摘されますが、私達はアレルギーに感作される時期の若年化および一つのアレルギーが他のアレルギーの原因となるアレルギー連鎖について研究しました。

対象は生後3ヵ月から18歳までの1,156名です。16年前、同愛記念病院の馬場実先生が報告されたのに比べて、花粉や真菌への感作が3～4歳ごろであったのが乳児期後半へとより早期になっていました。さらに、犬や猫に対しても乳児期から高率に感作されていました。一方、乳児期前期に高率に感作されていた卵など食物抗原、また乳児期後半から幼児期前半に感作されていた家ゴミやダニ抗原に対する抗体出現は16年前と今日に差がありませんでした。アレルギー連鎖からみると、食物への感作がアトピー性皮膚炎と関連し、さらに吸入抗原への多感作は喘息へと関連することが示唆されました。すなわち、質量の大きい蛋白質である、卵への感作、室内環境整備としてのペットの飼育、カビ・ダニ対策は次へのアレルギー連鎖を予防する上で重要であることを示しています。最後になりましたが、いつも患者を御紹介いただいている各先生方に感謝いたします。今後ともご指導よろしく御願い申し上げます。